

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195700075		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム上幌向 1階ユニット		
所在地	岩見沢市上幌向北1条4丁目750-6		
自己評価作成日	令和1年10月31日	評価結果市町村受理日	令和1年12月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195700075-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の個々の生活歴を大事にしながら日々の生活の中でそれぞれがご自分のペースで過ごせるようにしている。ホーム内ではボール投げや塗り絵等レクリエーションや談話をしたり月毎で誕生日の方が居れば職員と利用者様とでお祝いしとても喜ばれています。また、行事も年を重ねる毎にバリエーションが増えてきており、雪解けと共に気温が暖かくなると近隣へ出かけ花見をしたり、夏にはホームの駐車場と室内で夏祭りを開催したり、秋には敬老会でスライドショーにより今年の様子を振り返る等既存の物に対して新しい試みを取り入れながら利用者様と行事に参加下さるご家族様とが一緒に楽しんでもらえるようなものとなってきている。これまで各階での行事であったものもホーム全体として行うようになり、同時に利用者様のユニット間交流にも幅を持たせる事が出来ており、日常的に職員と利用者様とで出入りして同じ建物内でも普段とは違う雰囲気を感じて頂けるようになっている。また、事業所の周りは閑静な住宅街と毎年収穫物が変化する畑、近隣には駅や中学校、児童館等があり比較的静かな環境の中で過ごす事ができ、視覚的にも季節の変化が見て取れる場所となっている。内部は窓が多く直線状の間取りとなっている事もあり日光がよく入り室内は明るい状態を保たれている。利用者様も窓から外の景色を眺める事が多く職員と共に生活をしながら季節の変化を感じ取って頂けるよう日々のケアにおいても個別的に統一した対応を行うように努めている。ホームの庭にも畑があり利用者様と一緒に作物を植えて時期が来ると一緒に収穫して皆様に食べられるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホーム上幌向」は、JR上幌向駅から徒歩で数分の位置にあり、近隣に広大な農地が広がる静かな住宅地に立地している2ユニットのグループホームである。居間や食堂は独立した開放感のある造りで、大きな窓から明るい光が注いでいる。壁には利用者と一緒に制作した季節の装飾や作品などが飾られている。玄関や浴室、トイレなどの共用空間も広くて使いやすく、居室内も状況に応じて細やかに温度調節ができる個別床暖房設備が整備されている。近隣住民から清拭布の差し入れを受けたり、中学校から夏祭りで使用するテントや机などの備品を借りるなどの協力も得ている。年2回の歌謡ショーのボランティアも数年間継続して来訪しており、利用者の楽しみのひとつになっている。昨年度新たに就任した管理者の下、今年度は盛大な夏祭りを開催し、敬老会ではスライドショーで日々の生活を紹介するなど工夫を凝らした行事を行っている。また、いも餅や桜餅、ホットケーキ、たこ焼きなどを利用者と一緒に作る取り組みにも力を入れている。利用者の好みに配慮しながら献立を変更したり、大型店のフードコートに出かけて外食するなど食事の楽しみを工夫している。管理者を中心に全職員で理念を共有しながら一人ひとりの利用者に寄り添い、家庭的な温かなケアを行っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット居間の見える場所へホームの理念を掲示しており、職員には個別で理念が記載されているカードを携帯している	開設時、地域密着型サービスを意識した文言を入れた事業所独自の理念を職員と共に作成している。利用者の生活や職員の対応、家族との繋がりなどと照らし合わせながら理念を意識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や回覧板を通じて情報収集を行い、参加可能なものについては町内行事へ参加している。利用者様と地域の方でお話をされる場面も見受けられ地域の一員として社会との繋がりを確保できている。	町内の盆踊りに参加したり、事業所の夏祭りに地域住民を招待している。ボランティアによる年2回の歌謡ショーを数年間継続して実施している。子供たちと交流できるように、近隣の児童館への働きかけも検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主にご家族様の面会時においてお話をさせて頂く事や運営推進会議において話をする事で支援方法や理解が得られるように努めている。今後は地域の方がホームへより気軽に足を運んで頂けるような機会も作っていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームやユニット毎の報告を行い質問やご意見の有無を確認している。会議の場で意見を出しにくい方もいる事を考慮した上でホームより家族の方へどのような情報が知りたいのか問いかけ提案や意見を頂いている。頂いた意見を参考によりよいサービス提供やご家族様の知りたい情報が届くよう努めている。	市役所や地域包括支援センター職員、家族などが参加して、事業所報告を中心に風水害などについて会議を開催している。会議案内と議事録を全家族と町内会役員に配布しているが、町内会関係者の参加は殆ど得られていない。	町内会関係者の参加が得られるよう、継続的な働きかけを期待したい。また、会議のテーマを計画的に設定し、テーマを事前に案内することも期待したい。テーマに沿ったミニ勉強会などの実施も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険に関わる部分での確認が必要な部分や地域密着型サービスである為、市外からの入居となるケースについては事前に関係機関への連絡・相談を行い助言を頂く事がある。	管理者は、介護保険の更新手続きで市役所を訪問したり、入居時の書類手続きなどで分からないことがあれば相談している。保護課におむつ補助について確認したり、利用者の状況について情報交換することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年開催されている外部研修への職員参加をはじめ、日々のケアの仕方についてカンファレンス等を通じて検討する中で身体拘束に該当するかどうかも含めて実践するようにしている。また、新人職員に対してはオリエンテーション時に身体拘束についての説明を実施している。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載した法人共通のマニュアルを整備している。外部研修後に報告研修を実施し、内部研修でも身体拘束や不適切な言葉遣いについて学びを深めている。利用者が外出しようとした時は職員も一緒に出かけ、気分転換できるように対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年開催されている外部研修への職員参加や、それと同時に伝達研修を実施している。また、不定期でカンファレンス時に虐待や身体拘束、不適切ケアについて意見交換や日頃のケア方法について見直す機会を作っている。		

ふれあいの里グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームにおいて実績はないものの、今後該当者が入居された際に備えて勉強の為の資料を揃えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時においては内容の説明を行いながら都度質問や疑問点がないかどうかを確認している。解約時はお話しながら説明機会を、改訂時には書面にて事前連絡を行った上で質問があれば受け付ける体制を確保している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族様の面会時に近況報告を行っており、その中で意見や要望が出る場合もある。また、利用者様からは話しをする中で意見や想いをお話し頂く事で日々のケアに反映できるように努めている。	家族の来訪時に利用者の近況を伝えて意見や要望を聞き取り、パソコンの面会記録に入力している。2か月ごとに「ふれあい新聞」を発行し、6か月ごとに個別だよりで利用者の様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理職を中心として運営に関しての意見を取りまとめているが、運営に関わらず現場職員からの様々な意見が出しやすいような職場の雰囲気、環境づくりができるように努めている。	毎月のユニット会議で、利用者の個別状況や業務の見直しについて意見交換しながら対応について検討している。個別ケアや居室の家具の配置など、職員の提案を活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム内の状況においてはできるだけ適材適所となるような係の割り振りであったり個性が良い方向に活かせるような人員配置を心掛けている。やりがいに関しては与えられた内容について管理職が主とならずになるべく現場職員に任せる事で責任をもって行い達成感を感じてもらえるような取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個性や力量を把握し管理職間で共有した上で、職員が外部研修の参加機会を確保し、修了後は伝達研修を実施する事でより理解を深めてもらえるようにしている。また、改善事項があれば都度伝えながらケアの質向上と認知症の方への対応方法が学べるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や同法人内における事業所同士の交流を行っている。また、勉強会については法人内での研修をはじめ、カンファレンス内において不定期で勉強(研修)の機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する際に、ご本人様の意向を伺い不安や心配事についても必ず伺う様にしている。ご本人様の希望になるべく沿えるように日ごろから接する機会を作り対応する様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様より意向が聞けない場面もあり、ご家族様からの伺う機会を設けている。また、必ずご家族様からも要望を伺い出来るだけ対応を行える様に話し合いができるように接点を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する際にご家族様より情報を頂き不足の状態にならぬよう情報の共有を行っている。また、後に支援が必要となったものについては再度ご家族様に報告を行い対応を行う様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自ら出来ることに関しては自力で行って頂くよう接点を作らせて頂き、出来ぬ問題については職員と一緒にやる事で自尊心を傷つけることなく生活をして頂く様にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪された際には、必ず生活状況を報告し本人様状況が分かるようにしている。また、外出、外泊時には施設での生活リズムが把握できるように手紙を作成し対応が困難な状況にならない様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に知人様の来訪は拒否していないため、利用者様に報告をした上で面会を行っています。また、利用者様の生活状況においては双方に迷惑が掛からない程度にお伝えしています。	友人や知人が訪ねて来たり、親族から手紙やハガキが届く利用者もいる。職員と一緒に散歩で馴染みの店に出かけたり、フードコートで外食を楽しむこともある。家族と自宅に帰ったり、墓参りや食事に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的には、共同生活の場なので全利用者様と関わって頂いています。会話が聞こえなかったり場の雰囲気に入れない様子がある際には職員が介入し対応を行う事で孤立することなく生活をして頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方については必要があればご家族様との連絡機会の確保であったり、ご本人様の過ごし方を様子を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	中々意向を口にすることが出来る利用者様が少ない中で、本人様の表情や仕草等から汲み取る場面も多くない。また、希望が聞かれた際には、強弱に合わせて個人様の居室を使い傾聴する機会を設けている。	会話や動作、表情の変化などから思いや意向を把握している。ADL等のアセスメントシートを定期的に更新しているが、利用開始時に作成しているセンター方式のシートの更新や追記は行われていない。	センター方式シートの生活歴の情報を追記すると共に、B-3シートに興味や嗜好などを具体的に追記し、定期的に情報を更新するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談を行い知りえる情報は収集を行っている。また、ご家族様しか知らない情報もある事があるため情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特変状況があった際には必ず全職員に伝わるように申し送り事項や事務連絡といった形で残している。口頭でも情報の共有を行い把握をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活において、気付いた点があった際に情報共有を行い、月1回のケア会議では全職員と検討を行っている。又、医療分野での不明点や、対応に困った事については往診医、訪問看護師に相談しながら計画の作成をしている。	利用者担当職員と計画作成担当者を中心に全職員で評価を行い、3～4か月ごとに介護計画を作成している。家族に介護計画書(1表)の家族意向欄に記入を依頼して計画の見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況については、必ず記載を行い特変時の様子については申し送り事項として全体周知出来るようになってきている。また、個々で対応を変更した際にも共有を行い期間を設け実践し結果報告を行い見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出希望時や一人で本人様を連れて出掛ける事に不安を抱えている状況に合わせて、介護タクシーの使用や付き添いサービスの提案を行っている。又、必要時にはなるべく職員も同行する事やご家族様のご都合に合わせて対応を行う相談をさせて頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣には、畑や水田、駅、学校、市民会館、個人商店やコンビニエンスストア等多数あることから外出時や希望時には職員と一緒に外出機会を設けさせて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医及び往診に関して入居時に説明を行い、希望があれば受診準備や経過報告の手紙作成等を実施している。また、症状によっては一度往診に切り替えた方であっても内服調整や詳細な検査の為にかかりつけ医へ受診する事もある。	全員が内科の往診を受けている。家族と専門医などを受診する時は、利用者の状況を書面で主治医に伝えている。往診と受診の状況は、パソコンで個別に情報を管理している。	

ふれあいの里グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に1回あるため、事前に利用者様個人の特変を伝えられる状況にしている。また、往診先への情報伝達も行って頂いている為に連携が取りやすい状況を作ることが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時において職員も同席してご家族様と一緒に医師からの説明を聞くようにしている。また、入院期間中は不定期であるが面会に赴いて状況確認を行い退院の際はホームとして円滑な受け入れ態勢が整えられるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合や終末期の対応について指針を提示して同意を得た上で入居して頂いている。必要時にはご家族様と話をする時間を設けてホームでどこまで対応できるか伝えた上でご本人様の今の状態も併せてお伝えさせて頂き次の住み先について検討をしている。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、常時医療行為が必要になった時や長期入院、経口摂取が困難になった時は事業所として対応が難しいことを説明している。体調変化に応じて家族や関係者と対応を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特変時における緊急対応マニュアルを作成しており原則それに基づき対応してもらうようにしているが、個別に対応が必要なケースも想定し得るので個々の状態に合わせて対応方法を共有するようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策計画を策定しており、それに基づいた避難方法や対応等を実施する。また毎年避難訓練を実施している。	昨年度は消防署協力の下、夜間の火災や地震からの火災を想定し地域在住の家族も参加して避難訓練を実施している。今年度は昼夜の火災を想定した訓練と洪水想定 of 自主訓練を予定し、地震時のケア別の対応を職員間で話し合う予定である。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心に配慮をした声掛けを行う事を全体に周知や指導を行い、介助機会を作っている。また、異性の問題については当日に解決が出来ない場面については日を改め対応職員を変更する事を意識している。	呼び名は「さん」づけを基本としているが、利用者の希望で、より親しみを込めた呼びかけをすることもある。年1回以上、言葉かけの勉強会を行っている。個人記録をパソコンで行い、利用者からは見えないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自らの判断で行って頂く様に介入をしている。また、内容が複雑なものや理解が困難な場面についてはご家族様に相談を行い一緒に判断をして頂く様に心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが大きく変わることをないように支援を行っているが、基本的には本人様やご家族様の希望に沿って生活をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や寒暖差により、本人様と相談し、好みの物を選べられる様に配慮している。ご自身での判断が出来ない際でも環境に合わせセッティングを行う事やご家族様と相談を行い衣替えを行っている。又、整容面では定期的に訪問理容を利用している。		

ふれあいの里グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、栄養管理士作成の元献立が組まれており栄養面のコントロールはされている。また、間食等で利用者様の食べたいもの等を伺い提供する機会を設けている。片づけに関しては食器拭きをメインに一緒にお手伝いに機会を設けさせて頂いている。	母体法人により献立と食材が提供されるが、時には休止して大型店のフードコートなどに外出に出かけることもある。利用者が下ごしらえや下膳などを手伝い、いも餅、たこやき、桜餅、ホットケーキなどのおやつと一緒に作ることもある。職員も同じ食事を一緒にとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理士の元献立を組んで頂いている。また、栄養面で別の調整が必要となった場合については、ご家族様や往診医やかかりつけ医に相談の元対応を行わせて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を使っており、各個人様の対応を行って頂いている。また、口腔ケアについては自力で行えない方や磨き残しがあった際には支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を把握し、排泄間隔が空いた際には本人の状況を見ながらトイレの声掛けをしている。また、失敗をしてしまった事への気持ちの落ち込みが無い様に心のケアも同時に行えるよう職員間で接遇の仕方も注意を促し対応を行っている。	全員の排泄記録を作成しパターンを把握している。誘導時は直接的な表現を避け、プライバシーに配慮している。状態に応じて昼間もベッド上で排泄用品を交換したり、夜間、ポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師や往診医に相談を適宜行い、個々に応じた処置を行う事が出来ている。また、排泄表を使用しており便秘している日が見落しがないようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定日は一応決まっている。しかし、ご本人様の健康状態や体調や意向があった際には適宜変更の可能が出来るよう配慮を心掛けている。また、個浴に限らず掛け湯やシャワー浴を行う事の提案をする事や、清拭対応の実施も行っている。	毎日、午前午後とも入浴が可能で、各利用者が概ね週2回の入浴を行っている。湯船に浸かることが難しい方はシャワー浴としている。入浴を拒む場合は時間や日にちを変えて誘っている。入浴時は職員と会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の入床、起床時間は基本的に決まっておらず、個々の状況に合わせている。又、休息時間は基本的に1時間程度にしており、昼夜逆転を改善するため、生活リズムを崩す事の無い様にしている。但し、なるべくご本人様の意志を尊重し休息したい希望があった際には休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握できるように服薬マニュアルを設け、ご本人様がどのような薬を内服しているのか周知を行い必要に応じ指導を行っている。また、内服に伴う副作用についても説明を行い情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボール遊び、塗り絵、歌、散歩を行い、利用者様の気分転換が出来る様にしている。又、施設内行事の企画を行い、なるべく利用者様の行きたい所や行事内容を伺い、実施出来る様にしている。		

ふれあいの里グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望時には、なるべく機会を設ける様にしている。遠出をしなくてはいけない状況ではご家族様に相談の上検討をして頂いています。近隣では、職員と一緒に散歩をする機会を設け外出機会を増やしている。	暖かい時期は周辺を散歩したり、近くの駅や列車を見に行っている。年間行事では、花見やバラ園見物、外食などに出かけている。冬季は外出機会が減るが、今後は個別の外出機会を増やす意向を持っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居契約時において、認知症である事から物が無くなる等の訴えも実際に職員や他利用者様間でのトラブルの原因になってしまう為、ホームでは現金の預りが出来ない旨の説明を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の要望が聞かれた際に対応を行っています。電話については、支援が必要な際には一緒に電話口に寄り添い対応を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室や共有スペースには、温度湿度計を備え、適切な温度湿度になっているか定期的に確認をしている。又蛍光灯は全て暖色にする事で、夜間トイレ等で目覚めた際に必要以上の刺激で中途覚醒する事が無い様に配慮している。また、ご本人様より変更点や希望が聞かれた際には対応が出来る範囲で応えている。	共用空間は明るく清潔で、窓からは南にJRの線路、北には広い畑が見渡せる。食堂と居間がそれぞれ広く、居間に大きなソファが置かれている。壁には季節の装飾や利用者の作品などが飾られている。トイレや浴室も広くて使いやすく、エレベーターも設置されている。床暖房で暖かく過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ADL状況に合わせ座席配置を検討し、その際入居者様全員と話し合いを行い決めている。配置を最初から決めず対応を行っている為、場面毎で変わるがご本人様の好きな場所に座る事が出来る空間にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	物に関しては、ご本人様とご家族様と相談を行いなるべく持ち込めるように配慮をしている。配置に関しては、リスクを伴う事が無い様に相談を行った上で配置を検討している。持ち込みに関しては基本的には受け入れている。必要時には、施設側より貸し出しも行い対応を行っている。	居室には備え付けのキャビネット、カーテンがあり、ベッド、椅子、たんす、時計などが自由に持ち込まれている。壁には塗り絵や習字など本人の作品、家族の写真、手作りカレンダーなどを飾り付けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	普段利用する場所には、認識が出来るようにシートや張り紙やのれんを使用し環境整備をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195700075		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム上幌向 2階ユニット		
所在地	岩見沢市上幌向北1条4丁目750-6		
自己評価作成日	令和1年10月31日	評価結果市町村受理日	令和1年12月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195700075-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の個々の生活歴を大事にしながら日々の生活の中でそれぞれがご自分のペースで過ごせるようにしている。ホーム内ではボール投げや塗り絵等レクリエーションや談話をしたり月毎で誕生日の方が居れば職員と利用者様とでお祝いしても喜ばれています。また、行事も年を重ねる毎にバリエーションが増えてきており、雪解けと共に気温が暖かくなると近隣へ出かけ花見をしたり、夏にはホームの駐車場と室内で夏祭りを開催したり、秋には敬老会でスライドショーにより今年の様子を振り返る等既存の物に対して新しい試みを取り入れながら利用者様と行事に参加下さるご家族様とが一緒に楽しんでもらえるようなものとなってきている。これまで各階での行事であったものもホーム全体として行うようになり、同時に利用者様のユニット間交流にも幅を持たせる事が出来ており、日常的に職員と利用者様とで出入りして同じ建物内でも普段とは違う雰囲気を感じて頂けるようになっている。また、事業所の周りは閑静な住宅街と毎年収穫物が変化する畑、近隣には駅や中学校、児童館等があり比較的静かな環境の中で過ごす事ができ、視覚的にも季節の変化が見て取れる場所となっている。内部は窓が多く直線状の間取りとなっている事もあり日光がよく入り室内は明るい状態を保たれている。利用者様も窓から外の景色を眺める事が多く職員と共に生活をしながら季節の変化を感じ取って頂けるよう日々のケアにおいても個別的に統一した対応を行うように努めている。ホームの庭にも畑があり利用者様と一緒に作物を植えて時期が来ると一緒に収穫して皆様に食べられるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット居間の見える場所へホームの理念を掲示しており、職員には個別で理念が記載されているカードを携帯している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や回覧板を通じて情報収集を行い、参加可能なものについては町内行事へ参加している。利用者様と地域の方とお話をされる場面も見受けられ地域の一員として社会との繋がりを確保できている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主にご家族様の面会時においてお話をさせて頂く事や運営推進会議において話をする事で支援方法や理解が得られるように努めている。今後は地域の方がホームへより気軽に足を運んで頂けるような機会も作っていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームやユニット毎の報告を行い質問やご意見の有無を確認している。会議の場で意見を出しにくい方もいる事を考慮した上でホームより家族の方へどのような情報が知りたいのか問いかけ提案や意見を頂いている。頂いた意見を参考によりよいサービス提供やご家族様の知りたい情報が届くよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険に関わる部分での確認が必要な部分や地域密着型サービスである為、市外からの入居となるケースについては事前に関係機関への連絡・相談を行い助言を頂く事がある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年開催されている外部研修への職員参加をはじめ、日々のケアの仕方についてカンファレンス等を通じて検討する中で身体拘束に該当するかどうかも含めて実践するようにしている。また、新人職員に対してはオリエンテーション時に身体拘束についての説明を実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年開催されている外部研修への職員参加や、それと同時に伝達研修を実施している。また、不定期でカンファレンス時に虐待や身体拘束、不適切ケアについて意見交換や日頃のケア方法について見直す機会を作っている。		

ふれあいの里グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームにおいて実績はないものの、今後該当者が入居された際に備えて勉強の為の資料を揃えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時においては内容の説明を行いながら都度質問や疑問点がないかどうかを確認している。解約時はお話しながら説明機会を、改訂時においては書面にて事前連絡を行った上で質問があれば受け付ける体制を確保している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族様の面会時に近況報告を行っており、その中で意見や要望が出る場合もある。また、利用者様からは話しをする中で意見や想いをお話し頂く事で日々のケアに反映できるように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理職を中心として運営に関しての意見を取りまとめているが、運営に関わらず現場職員からの様々な意見が出しやすいような職場の雰囲気、環境づくりができるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム内の状況においてはできるだけ適材適所となるような係の割り振りであったり個性が良い方向に活かせるような人員配置を心掛けている。やりがいに関しては与えられた内容について管理職が主とならずになるべく現場職員に任せる事で責任をもって行い達成感を感じてもらえるような取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個性や力量を把握し管理職間で共有した上で、職員が外部研修の参加機会を確保し、修了後は伝達研修を実施する事でより理解を深めてもらえるようにしている。また、改善事項があれば都度伝えながらケアの質向上と認知症の方への対応方法が学べるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や同法人内における事業所同士の交流を行っている。また、勉強会については法人内での研修をはじめ、カンファレンス内において不定期で勉強(研修)の機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族に面談した際に、不安な事、希望などを話し合い安心して生活を送って頂けるようにしている。得た情報は職員と共有し、生活歴、既往歴を把握し支援するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には、入所前に面談し、困っている事、不安な事などを話し合い、安心して生活が送れるようにしている。得た情報は職員と共有し既往歴、生活歴を把握し介護するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に収集した情報を基に、アセスメントしどのようなサービスを必要とされているかを判断し、利用者、家族が納得した上でサービスを開始している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を共に生活する者と理解し、日常的な仕事を利用者の能力に合わせ提供又は出来るよう支援している。仕事により、利用者に教えて頂きながら行う。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時には、利用者の現況を報告し、家族からの意見や質問にも出来る限り答え、利用者にとって何が一番良いかを相談しながら行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居が長くなると面会回数も減る傾向が事実としてある。特にお盆や正月にはなるべく家族と一緒にいられるよう支援しているが、介護度が高くなると家族の負担も大きく協力して頂くことが難しいことが多い。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳のとおい利用者が多く、一方通行な会話となり問題が起こる事がある。会話時には注意し、職員が間に入り調整している。利用者同士が楽しめるよう、レクや手工芸の提供をしている。		

ふれあいの里グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方については必要があればご家族様との連絡機会の確保であったり、ご本人様の過ごし方を様子を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一対一での会話を持つようにし、本人の思いを聞き取るようにし、家族の協力も得て情報の収集に努め、支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で、生活歴、生活習慣、趣味、家族関係などの聞き取りを行い、入居後も日常の会話の中から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況、行動、生活パターンから日常生活状況を把握し、持っている力を発揮できるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議で話し合いモニタリングの実施をしている。その結果、ご本人、ご家族に希望や意見などを聞き原案として職員に周知して頂き、現状に即したプランの作成になるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特変などがあった場合等、勤務している職員で相談し、常に気づき、疑問、意見などを話し合い実践に結び付けている。話し合い、実践の結果を記録し、全職員が周知できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれず、その時々ニーズに合わせ対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の高齢化が進み協力を得る事は難しいが、御家族は協力的である為、地域の行事参加などが実施できている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医及び往診に関して入居時に説明を行い、希望があれば受診準備や経過報告の手紙作成等を実施している。また、症状によっては一度往診に切り替えた方であっても内服調整や詳細な検査の為にかかりつけ医へ受診する事もある。		

ふれあいの里グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	疾病の早期発見のため、少しでも異常を感じた時には、すぐに訪問看護師や往診医の病院に電話し相談、連絡報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時において職員も同席してご家族様と一緒に医師からの説明を聞くようにしている。また、入院期間中は不定期であるが面会に赴いて状況確認を行い退院の際はホームとして円滑な受け入れ態勢が整えられるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合や終末期の対応について指針を提示して同意を得た上で入居して頂いている。必要時にはご家族様と話をする時間を設けてホームでどこまで対応できるか伝えた上でご本人様の今の状態も併せてお伝えさせて頂き次の住み先について検討をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特変時における緊急対応マニュアルを作成しており原則それに基づき対応してもらうようにしているが、個別的に対応が必要なケースも想定し得るので個々の状態に合わせて対応方法を共有するようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策計画を策定しており、それに基づいた避難方法や対応等を実施する。また毎年避難訓練を実施している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア時にはプライバシーに充分配慮するようにしている。利用者の人格や個性を理解し声掛けや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の重度化にもよるが、出来るだけ本人の自己決定が出来るように、会話の引き出し、確認をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身の判断で生活が出来る利用者は、自分のペースで過ごされ、居室やリビングで自由に過ごされています。無理せず、個々のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、翌日着用の衣類をセッティングしているが、ご自身で出来る方はお任せしている。時々季節に合わせぬ服装であったり、寝着の上に服を着ているのを確認した時は、声掛けし一緒に選んでいる。		

ふれあいの里グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	認知の進行により、失認がある入居者様、飲み込み確認が必要な入居者様がいるテーブルには職員を配置し見守り、介助している。他の職員も、見守りし食事の手が止まった方に摂取を促したり、片付け時の介助を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量ともに摂取量、状況を入力し把握している。租借状況、飲み込み状況に変化が見られた時は、医師や看護師に相談し食事量、形態を変え提供し、提供後の状況も医師や看護師に報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し磨き残しが無いように、必要時介助している。義歯を使用されている方は、夕食後、義歯洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの観察実施にて、個々のパターンは把握できている。排便についても、排泄表に基づき便秘にならぬよう配慮している。排泄については、出来る限りトイレでの排泄を継続できるように見守り、必要に応じ介助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診医に事前に約束処方されている入居者に関しては指示の従い下剤内服している。硬便にて排出困難な場合は看護師により処置の実施。予防として毎日牛乳とヨーグルトを提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、個々の承諾を得て入浴している。承諾の無い時は、時間や日にちを変更し入浴頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活において医休養が必要と判断した場合はプランに立案し実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や訪問看護師と相談しながら、内服薬、外用薬に関しては相談しながら一人一人の症状に合わせて工夫している。往診・受診内容や薬に関する情報は、連絡ノートに記載、業務日誌などに記載し周知して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加をはじめ、ご自分の家で生活上で行っていたことを、出来るだけ行って頂いている。		

ふれあいの里グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族には了承を得て、外食などを行っている。散歩などもお誘いして他の入居者様に支障がないよう配慮し行くようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居契約時において、認知症である事から物が無くなる等の訴えも実際に職員や他利用者様間でのトラブルの原因になってしまう為、ホームでは現金の預りが出来ない旨の説明を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、御家族様、御家族の許可したところへは取次している。それ以外は個人情報などに配慮し、かけないようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃は欠かさずしている。他失禁時、便器の汚染、トイレ内の汚染時は適宜清掃している。窓は換気も含め天気を見て毎日開けている。高齢な為体温調整ができない入居者様が多く温度計、湿度計を設置し適温にしている。食堂のテーブルは食事前に必ず消毒用ペーパーを使用し消毒。生活環境には居室も含め配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士で自然と座る場所を決めているところもあり、必要以上に介入しないようにしている。居室で過ごされている場合は、時間を見計らい訪室し様子を観ている。プランにも立案し様子を記録に残している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物を入居時に持って来ている。危険と思われるものは、ご家族と話し合いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の認知度、性格、生活歴などを鑑み、出来ることを判断して、家事への参加や身の回りのことなどが出来るようにプランに立案し見守りし、必要であれば介助し記録に残し、サービスの提供の共有を図っている。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム上幌向

作成日：令和 1年 11月 20日

市町村受理日：令和 1年 12月 3日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	27	実践を行う上での、介護知識や技術の不足 また、意識への改善や指導について	全職員が同じ方向性で意識を持ち、介護知識や技術 の向上を目指した上で統一したケアの確保並びにケ アの質向上に努める。	内部および外部研修に参加する機会を増やし伝達研 修を実施させる事で参加者自身に理解を深めてもら う。 また、E-ラーニングにより個々で不得意とする部分へ の学習機会を確保して事業所またはユニットとして足 りない部分を補う事が出来るようにする。職員間で意 見交換を含めて現在のご本人様の状況に合わせたケ アの検証および協議を実施していく。	3か月
2	26	モニタリング作成時の役割分担改善	担当利用者様の情報が把握できるようにする。	利用者様ひとりずつに対して担当者を設定し、ケアプ ランに則したサービス提供が実施できているかどうか の確認と評価を行う。また、経過の把握や様子の変化 を担当者が自発的に探っていく為の過程を全職員に 伝えて浸透させる。	2か月
3	6	身体拘束に関する知識やケアの方法について、介護 経験の少ない職員に対して不足している部分があり 意図せずに介入しすぎてしまったり誤った対応方法に なってしまう事がある。	自身の行っている介護が第三者の目から見てどうい う状況なのか考える機会をつくる。 また、別の対応がないかどうかを自ら考えて判断した り、実際に取り組む事が出来るようになる。	事業所内で実施している研修内容を多様化させたり 自らの意見を出せる場を作り、職員間で話し合える環 境を整える。また、外部研修への参加機会を増やして 他事業所ではどういう対応をしているかグループワー ク等を通じて振り返りおよび自身で気付けるの機会を 確保する。	6か月
4	2	地域や子供との関わる機会が不足しているので機会 を増やす。	地域の方々との触れ合いの場を増やし、町内活動等 の機会へ積極的に参加できるホームにする。	利用者様と一緒に戸外へ出かける機会を積極的に設 けて町内行事をはじめとしたものへ参加する事により 地域の方々にホームの事を現状よりも深く知って頂け るようにする。	1年
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。